

1. 大会運営に関する注意事項

- (1) 組み合わせ抽選会には、監督会議を兼ねるため監督、もしくは代理者と主将は必ず出席すること。
(注: 正当な理由が無く欠席のチームは棄権とみなす)
- (2) 開会式及び閉会式について
 - a. 開会式は学校行事や連盟行事・派遣等止むを得ない場合を除き登録選手全員が参加すること。
 - b. 開会式に参加する服装は正規ユニフォームを着用すること。
(注: 意匠の異なる服装での入場行進は認めない)
 - c. 入場行進は先頭の主将がプラカードを持ち、身長の高い者から順に行進すること。
 - d. 閉会式は4位までの入賞チームが参加すること。
(注: 大会登録選手全員が必ず参加すること。やむを得ない理由で全員が参加できない場合は必ず主催者の承認を得ること。)
- (3) 対外試合派遣及び天候不順等の日程上ダブルヘッダーで試合を行うこともある。
- (4) 天候等の状況で大会開催が危ぶまれる時は連盟指定の担当者、又はホームページで開催可否を確認すること。
- (5) グラウンド内へは大会登録した指導者と選手以外の入場は認めない。
試合前のグラウンド内での練習には、ユニフォーム着用者と審判出役者に限り参加できるものとする。
(出役審判員は審判服でも良い。但し審判業務が最優先である。)
- (6) 特別継続試合(サスペンデッドゲーム)における選手の出場について。《野球規則7.02(c)》
 - a. 特別継続試合においては、前の試合(停止試合)で退いた選手の出場は認めない。
 - b. 特別継続試合では、停止試合に選手登録されていなかった選手でも新たに選手として登録されれば試合に出場出来る。

2. 審判員に関する注意事項

- (1) 審判は、帯同制または当番制とする。(詳細は別紙参照)
- (2) 当該チームは2名の審判員を出役させ、連盟審判員に協力しその任に当たること。
 - a. 帯同・当番審判員のうち最低1名は、球審・1・2・3塁審の全てに対応できることを条件とする。
 - b. チームの正・副審判長が出役することを基本とするが、正・副審判長が任に就けない場合は、チーム審判長が指名した者への交代を認める。
 - c. 明らかに不適当な人員を配したと認めた場合は、その当該チームに対し警告及び指導を行う。
- (3) 審判員は、審判としての自覚を持って行動し、試合開始後は、自チーム関係者とは安易に接触しない。
- (4) 出役審判員の服装については以下を原則適用とし、着用を義務付ける。

帽子…	【色】黒/濃紺	【形】審判帽
上着…	【色】黒/濃紺	【形】ウィンドウブレ(注: チームロゴ入りグランドコート着用は厳禁)
セーター…	【色】黒/濃紺	【形】Vネック
シャツ…	【色】白/水色/黒/濃紺	【形】Yシャツ・ポロシ(注: 推奨の審判用シャツあり)
パンツ…	【色】濃紺/灰色/チャコールグレー	(注: 単色のみ、ライン入りは不可)
ベルト…	【色】黒/濃紺	
ソックス…	【色】黒/濃紺	
シューズ…	【色】黒	

(注: ジャージ・ユニフォームは厳禁、違反した場合はそのチームに対しペナルティを科す場合がある)

☆千葉県および柏市少年野球連盟の審判員としての正装については連盟審判員の服装等を参考に。

柏市少年野球連盟大会特別規則 補則事項－2

3. 試合に関する注意事項

(1) チームの編成について(ベンチ入りが許される人員)

	背番号	服装	ベンチ入り人数	
代表者		私服	1名	
監督	30番	規定のユニフォーム	1名	
コーチ	29番	規定のユニフォーム	1名	
コーチ	28番	規定のユニフォーム	1名	
コーチ	無番	規定のユニフォーム	2名	*低学年の部のみ
スコアラー		私服	1名	
キャプテン	10番	規定のユニフォーム	(1名)	
選手	0～27番	規定のユニフォーム	28名以内 ※	
介護員		私服	2名以内	

- (注) ア. 介護員、スコアラーを除き、大会登録者以外のベンチ入りは許されない。
 イ. 監督不在時の代行は【大会登録されたコーチ】以外は認めず、メンバー表交換時に届け出ること。
※ベンチ入りは28名までできるが、そのうち試合へ出場できるのは25名までである。
(メンバー表へ記載できるのが25名までである。)

(2) メンバー表の交換等

- 交換されたメンバー表に記載された選手以外は、シートノックに参加できない。
- ノッカーは監督、コーチのどちらでも良いが、必ず選手と同意匠のユニフォームを着用すること。
- ジャージ等の私服やグラウンドコートを着用して、グラウンドへ出ることやノッカーとなることは認めない。
- ~~サンダグラスを使用する指導者はメンバー表交換時に申請し承認を得ること。~~

(3) 試合の開始と終了について

- 両チームのベンチ内にいる指導者(代表者・監督・コーチ・スコアラー・介護員)はベンチ前に整列し、選手に合わせて礼を交わすこと。
- 試合開始時刻は、球審による『プレー』を宣告した時の本部記録員が記録した時刻とする。
- 試合終了後は、挨拶のみとし速やかにベンチを空けること。
- 試合終了後、両チームは速やかにグラウンド整備を行う事

(4) 試合中の禁止事項

- グラウンド内へマスコットバット・リング・鉄パイプ等を持ち込むことを禁止する。《注意》
- 作為的な空タッチや砂かけの行為を禁止する《注意》
- 相手チーム及び審判員に対する【野次・暴言】を禁止する。《①選手の場合:監督を退場処分
②指導者の場合:当事者を退場処分》
- いかなる理由であっても指導者は選手に暴力を振るうことを禁止する。《当事者を退場処分》
- 自チーム側応援より相手チームおよび審判員に対する【野次・暴言】を厳禁する。
《チーム責任として監督を退場処分》
- 抗議等を含む、いかなる場合でも相手選手・指導者および審判員に手を掛ける(触れる)ことを禁止する。
《当事者を退場処分》
- いかなる理由であっても試合中に選手がグラウンドに出ない(ベンチへ引き上げる)、あるいはグラウンドに出ても試合を行うことを故意に拒否したと審判員が認めた場合はその当該チームの敗戦とする。《没収試合》
- ベンチ内での喫煙および携帯電話の使用を禁止する。《当事者を退場処分》
- 相手チームのシートノック中は全員がベンチ内で待機していること、但しバッテリー1組の投球練習は認める。
《注意》
- その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。
- 次打者席(ネクストバッターサークル)では、投手が投球動作に入ったら、素振りをしてはならない。
- 投手が投球準備に入ったら、投球の動揺を発するような声を発してはならない。

柏市少年野球連盟大会特別規則 補則事項－3

(5) 試合時間の短縮について

- a. 各回の先頭打者と次打者およびランナーコーチはミーティングに参加せず直ちに定位置につくこと。《注意》
- b. 先発投手と救援投手の投球練習数は、初回5球以内、次回から3球以内とすること。
(気候により球審の判断で変更もある)
- c. 投手が野手に交代し、再び投手に戻った場合には、投球練習数を3球以内とすること。
- d. 内野手間のボール回しは禁止する。
- e. 監督のタイム要求は必ずベンチ内で行い、審判員がタイムを宣告してからベンチを出ること
(他の指導者はベンチから出るとは許されない)。《注意》
- f. 監督は投手の元に行く時や選手の交代を申告する場合でベンチを出る時は必ずグラウンドコートを脱ぐこと。
- g. タイムは1分間を限度とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りではない。
- h. 作為的な遅延行為があると審判員が認めた場合は没収試合となる。《野球規則7.03》
- i. 打者は必ずバッターボックス内で、ベンチ及びランナーコーチのサインを確認すること。《注意》
- j. 打者は投球の終了毎にみだりにバッターボックスをはずすことは許されない。《注意》
- k. 打者は速やかに打者席(バッターボックス)に入り打撃姿勢をとること。
- l. 投手は捕手のサインを確認する時は、必ず投手板に着いて確認すること。《注意》
- m. 投手は打者が正規に打撃姿勢をとるまで投球してはならない。
- n. 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板に着いて『投球』への動作に入ること。

(6) その他

- a. 球場内でのバッティング行為は禁止する。
- b. 正当な理由なく試合開始時刻になっても、試合会場にこないチームは棄権とみなす。
- c. 大会中の負傷については、その場の応急処置はするがその後の責任は負わない。
- d. 試合中、球審にボールを渡す選手はヘルメットを着帽すること(渡す際の脱帽はしないこと)。
- e. ブルペン等でのバッテリーの投球練習において、捕手が座って投球を受ける場合はマスク・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファールカップを必ず着用すること。
- f. 守備側タイムの場合は、その間に投手は投球練習することはできない。
- g. 試合中の投球練習(捕手はマスク等の防具を着用すること)は一組に限る。《注意》
- h. シートノック時のノッカーにボールを渡す選手および後方でボールを集める選手はヘルメットを着用すること。
- i. 酷暑期の試合において、同一回の攻撃(守備)が長時間に及ぶ場合、攻撃が一巡するか、15分経過を目途に給水タイムを取る事とする。(控え審判が時間を計測する。)給水タイムは、ロスタイムとしない。
- j. 本規則に明確に規定されていない事項に関しては、審判員の判断で裁定を下す事が出来る。

(別紙)

【審判制の詳細】

1)1会場1試合の場合

- ・帯同審判制＋連盟審判
当該チーム2名出役
奇数日…若番側チームが球審と2塁審、老番側チームが1塁審と3塁審を担当する。
偶数日…老番側チームが球審と2塁審、若番側チームが1塁審と3塁審を担当する。

2)1会場2試合の場合

- ・当番審判制＋連盟審判
当該チーム2名出役
・第1試合→第2試合のチームが担当
・第2試合→第1試合のチームが担当
奇数日…若番側チームが球審と2塁審、老番側チームが1塁審と3塁審を担当する。
偶数日…老番側チームが球審と2塁審、若番側チームが1塁審と3塁審を担当する。

3)1会場3試合の場合

- ・当番審判制＋連盟審判
当該チーム2名出役
・第1試合→第3試合のチームが担当
・第2試合→第1試合のチームが担当
・第3試合→第2試合のチームが担当
奇数日…若番側チームが球審と2塁審、老番側チームが1塁審と3塁審を担当する。
偶数日…老番側チームが球審と2塁審、若番側チームが1塁審と3塁審を担当する。

4)1会場4試合の場合

- ・当番審判制＋連盟審判
当該チーム2名出役
・第1試合→第2試合のチームが担当
・第2試合→第1試合のチームが担当
・第3試合→第4試合のチームが担当
・第4試合→第3試合のチームが担当
奇数日…若番側チームが球審と2塁審、老番側チームが1塁審と3塁審を担当する。
偶数日…老番側チームが球審と2塁審、若番側チームが1塁審と3塁審を担当する。

※当番審判員の出役もと連盟審判員が主体となって運営する。

5)控え審判員(記録員:各チーム1名)として、自チームの試合を担当する。

6)準決勝以上は、基本的に連盟運営とするが、状況により当該チームに出役をお願いする場合がある。

7)当該チームの審判員は、当番試合の開始予定時刻の1時間前集合とする。
30分前には、審判員の準備を終え、本部席前に集まる。

8)ペナルティ…当番審判員が、担当する試合に欠席あるいは1名しか出役させなかった場合は、違反としてペナルティを課す。
・グラウンド整備員として、2名出役させ、第1試合から終日、グラウンド作りから最終試合後の片付けなど、グラウンド整備にあたること。
・整備するグラウンドは、違反した日の次試合の日とし、自チームが勝っている場合は、その試合会場である。負けた場合は、勝ちチームの試合会場とする。